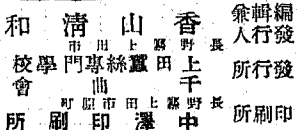


林貞三

朝鮮に第一歩を踏み入れて

昔朝鮮は現在の日支滿蒙露の諸國の中間に介在し彼支那國の關係に置かれたので従つて階級思想が發達して、飽く事なき官吏の横暴さを發揮して居た。例へば苛酷に過ぎる迄の税金の附加があつたのであります。その爲に下層農民の生活戰慄を極度に恐威し常に貧困のどん底に生活する事に甘んじ、爲に一つの諦觀と捨鉢の氣持に向上心は尠められ、正義觀念はの彼等にとつては一片の反古紙同様のものとなつてしまつた。現在鮮人に小學教育を受けつゝ有るものは全體の三割に過ぎないがその授業も四時間中、一時間は體操、或は唱歌と言つた様な肩の凝らないもの、一時間は普通學課、他の二時間は之を授業料の催促に當てゝ居ると言ふ様な實例もある由で、一驚を禁じ得なかつたのであります。之は何を物語るだらうか？ 往時の官吏の專制搾取して歡樂に耽けつた民狀は古來、小説、詩歌、劇等にに織込まれて後世に残るものも少くない。こゝに官吏の横暴を暴露し、而も歎



每月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）

樂に耽つて、その陰に泣いた女性の非常  
にペーソスに富んだ、春香傳なる戀物語  
りがある。之は南原に於ける物語りであ  
るが、今も南原には春香なる女性の宮あ  
り常に線香の絶間がない。いともロマン  
チックな物語りではある。

昔男ありけり。之は伊勢物語の最初の  
文句であるが、男に非ず、昔南原なる郷  
に春香と言ふキーさんの娘ではあるが氣  
品を具備した、而も才色兼備の處女があ  
つた。以下に綴る物語りを讀し出す以上  
シnekスピヤーのオフエリヤあたりを  
想像して戴いたら結構と思ふ。

或る日、春香が柳の木の下でブランコに乗つて居た。それを南原の殿様（昔風に斯く呼ぶ）の息子、李夢龍が一目見て好きになつてしまつた。當時朝鮮の風習として貴族が下賤な人間に話をするのは勿論の事、訪問する事などは堅き御法度となつて居たのであるが、李夢龍は如何にして春香に會ふ機會を造るべきかに腐心した結果、密かに使者を立て、春香來訪を求めた。春香は水塗の跡も麗々しく次の様な意味の詩を以て李夢龍に返事した、蜂や蝶は綺麗の花の周圍には群れ集つて遊びはするが、花が蜂や蝶の所に遊びに行つた事を私は未だかつて聞いた事がないと、之の詩を讀んだ李夢龍は一本參つてしまつた。遂に禁を破つて密かに春香の家に到り會ふた。重なる會合の結果二人の戀の花は次第に成長して行つたのである。が月に斑曇花に風、彼の父である殿様は他州に轉勤を命ぜられ、止むなく彼も彼女と將來を約して父に従つた。次の殿様が赴任して來て南原を治める事

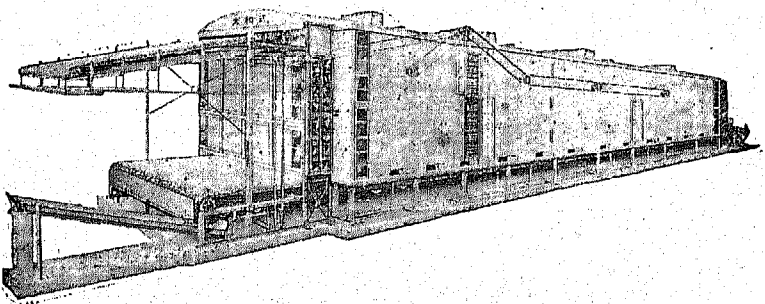
になつた。所がこの殿様も餘りに綺麗な  
春香に魅惑されて春香を口説いたが、一  
度契つた春香の態度には嚴然たるもの  
があつた。彼の權力を以つてしては如何  
なる事をも彼の意のままにならな  
い事はなかつた。彼は春香をも  
權力でもつて我物にしやうとした  
が春香の答はノウであつた。そこで  
殿様の怒、絶頂に達し愈々  
春香に死刑の宣告を下してしまつた  
のである。一方話は李夢龍に飛んで戀  
人との逢ふ瀬を生木の様にさかれた  
彼は一心發起して勉學し丁度今  
て云ふと高僧文天官の試験にパスし  
、地方の殿様の政治を巡視する  
檢察官になつた。丁度春香が  
、斷頭臺の露と消ふんとするその  
時、その場所へ來合はせ酒色に耽り  
居る殿様を處罰し、春香を助けたと云ふ話。

如何にも、ハツビエントに終つては居るが、女性に書かれた殿様と賤しい春香なるが、こゝには當時の鮮人の全部を代表して斯くあり度き希望を述べたものでその反面に横暴なる支配階級と、搾取されたた階級の悲惨なる昔時の光景を遺憾なく表現して居ると思ふ。兎に角現在の朝鮮の農民は貧困の者多く耕地面積は一反歩に過ぎぬ様なものが多數で大農者の手傳をしつゝ生活すると云ふ悲惨なるものが少くない。それにも拘らず正月などは一ヶ月も遊んで暮すと云つた悪習慣が残つて居り、向上心が失せてしまつて居るときへ見られる。甚だしいのになると監督されなければ仕事はしないと云ふ調子である。斯様な状態であるが故に、もし朝鮮に養蠶を奨励し様とするならば、三年の準備期間を如何に暮すか、當面の問題となつて来る。

そこで現在ではこの地方の養蠶を發達させるのに麥等に桑を間作させる方法、或は又蠶室も極簡易なものを奨励し飼育させる様に特別の工夫が必要である。一枚の蠶種を播立して得ない養蠶家が全體の七〇%を占めて居る現状であるから、先づ一戸當りの播立量を増加させる事が目下の急務である。現在では、繭を集め工場迄搬出するに内地に比較して一掛、絲歩で一掛、絲格が二格以下で二掛、工場の一經營費が一掛、合計五掛繭を安く買はねばならない。

以上の様に朝鮮の文化は極幼稚であるがさて吾々が一度大陸政策の方向に眼を向けた時に、當然考へられるのは足場としての朝鮮である。又もし万一不幸にして〇〇との間に風雲急を告ぐる様な場合

現代乾蘭機界ノ王座  
大和式自動輸送乾蘭機



## 二五九八年代表型

【各種型錄贈呈】

元 賣 發 作 製

株式會社

大和三光商會

東京京橋區京橋三丁目二番地  
電話 京橋(56)五三二〇番

## 營業課目

特許大和式自動輸送乾燥機  
特許大和式自動人絹乾燥機  
特許帶川三光式乾燥裝置  
特許やまざほい口  
特許サンコー式濾過淨水裝置  
特許サンコー式廢湯吸熱器  
特許サンコー式高壓ポンプ  
特許サンコー式トラップ

廣眺たる支那の平原に  
立ちて

があつたと假定しても、いざと云ふ場合は先づ朝鮮の物資で當座は間に合はせねばならない事は滿洲、日支兩事變の経験に教して明である。現に最近北鮮に重工業、南鮮に農業と力を致し、營々として新時代の建設に邁進しつつある。南大將は鮮人に次の三ヶ條を誓詞として與へて居る。

第一、吾等は皇國臣民なり、忠誠以つて君國に報ぜん

第二、吾等皇國臣民は互に信愛協力し以つて團結を堅くせん

第三、我等皇國臣民は、忍苦鍛鍊力を養ひ以つて皇道を宣揚せん

斯様に朝鮮を眺めたる時、地理的の重要さが判然として來ると同時に皇國臣民として次第に啓發さるべきであり、又されるものと信ずる。

支那を見て第一に頭に來る事は國家的に内容の整はない事である。この事に就いては毎日の新聞紙上で或は雜誌等で觀察して居た支那と寸分違はないものを見せて呉れた。之れは國民が國家の恩恵を微塵も受けて居ない所に胚胎するものと思ふ。然し有史以來四千年の歴史を持つ社會は嚴として認めざるを得ない。此處に注視すべきものがある。そこで彼等は社會人として生活して行く爲には決して人の惡口は云はず僧用を維持する事に最善の努力を致し、約束は絶対に譲る。が然し義を見てせざるは勇無きなりと云ふ言葉は支那人には該當しない。俺は俺、人は人の心情である。之れに就いて私が天津郊外で目撃した事であるが、それは日中道路の最中で喧嘩をして居る二人の男があつても誰も之を止め様とする者がなく、皆見て見ぬ振りをして通り過ぎてしまふエゴイストである。自分の爲めの社會生活でなかつたならば決して關かは

此處には蒙疆自治聯合委員會なるものがある。之は蒙古聯合政府、察南自治政府と晋北自治政府の三つが聯合して成立して居る、元來成吉思汗、ゲビライの本場土であつて、蒙古民族は精神無比にして非常に勤的な民族である。かつて秦の始皇帝が万里の長城を築いたのも夷狄である所の蒙古族の襲來に備へたものに外ならぬといふ。蒙古來る北より來る。で遠く東は日本西は中央亞西亞迄征服せんと企圖せるを想へば支那全土を蹂躪する位は彼等にとつては譯のない事であつたと思ふ。そこで遂に清朝は懷柔策に出たのである。世に存する凡ゆる効果的の手段方法（女性病、アヘン、ラマ教）を以つて而も殘酷且狡猾なる手段を持つて、蒙古族滅亡を不斷のモットーに懷柔策に出たのである。果せる哉。この策は奏効して現在この地に於ける純粹な成吉思汗、クビラ

一般民狀は以上の様であるが、最後の總括として支那敗慘民の實狀を説明して私の旅装を解く事にしやう。

於蒙古天鎮驛  
平野庄  
林貞一君  
三

篤之

然るに製絲科學生は三年に進學して初めて専門學校らしい學科を得て密かに家郷に誇り得たものである、そは主として紡織關係の學科であつた、之等紡織關係の學科を除いては、中等學校に毛の生えた程度の基礎學科に過ぎないものである一方養蠶科は動物學及び植物學及び之に關聯する高等學科が配列され、夜を日に次いで研學にいそしんで居つた。

製絲科は白い作業服を着て二學年以後の實習課程として工女に等しい繰絲に従事せねばならなかつた、それも時節なら致方もないのであるが、紡織科が獨立した今日、製絲科學生は何によりて學識を深めむとするか、蠶桑關係は養蠶科に、紡織關係は紡織科に、それ〴〵主要科目として占守され、獨り製絲科のみ工場に籠つて蛹臭くなつて居つてよいだらうか、今母校には蠶絲化學部がある、學生こそないが、現代日本の權威として、ここに生れる研究が世に渴仰される今日である。そこで従前の製絲技術者は養蠶科學生中より供給することゝし、製絲科を廢し蠶絲化學科の學生を募集したら如何人造纖維に關する研究だけでも相當多くの學徒を要する時世である、況はんや蛹の利用方法、生絲の羊毛代用工業等多々研究の範圍は擴められつゝあるのである、かくしてその卒業生には化學科の中等教員の免狀を下附せられるやうにせば卒業生の失業苦を免れしめ、千曲會員万歳を謳歌するときが待たれることゝなるろう、工場へ出ては檢番に驅使され、官廳に勤めては、養蠶關係職員に歴倒されつゝあつた過去の製絲科卒業生のみじめな奮闘振りを見て來た私として、痛切に製絲科の改編を要望して止まないものに推する、蠶絲化學の權威井上博士を校長に推戴して、この新陣容を形成することは誠に時宜を得たものと已惚れつゝ擲筆する次第である。(六、一〇)

上田便り

眞田三代記史蹟便り 新潟鐵道局は非常時局下の地位向上と日本精神演進の目的を以て史蹟巡りハイキングコースの選定中だが今回上田では眞田三代記史蹟巡りが新たにコースに編入され管下各コースと共に紹介されることになり上田温泉に對し局から眞田史蹟巡りコース紹介の文案を依頼して來たので目下同社では眞田の發祥地郡内長村字眞田山家神社を始め上田城址、鳥居峠等について調査を行つてゐる。

上田の軍事郵便物 五月中に於ける軍事取扱郵便は引受、配達、總計九萬一千七百五十八通で前月に比し八千九百七十通の増加一日平均二千九百六十通であつて緊密な統制の體に窺はれる。

珍品山犬頭蓋骨 上田中學校教員藤倉大順少尉は古くから自宅に上田市大門町順行寺の軒先に懸けとして吊して置つた山犬の頭蓋骨を上中博物室へ寄附した。山犬は現在から八九十年前までは上小地方に棲んでゐたが、今は全く絶へてしまつて殆どこれに就いての研究はなされて居らず而も日本には絶對に棲息しないと言はれる。舊大陸の狼とはよく類似して今の犬よりも狼に近い頭蓋骨を有してゐることが判り同校動物學擔任小泉清見教授は寄附された頭蓋骨に依り犬との比較研究に乗り出す事になつた。この研究は地質動物學的重大意義を有するものと見られてゐる。

ホームズパン年二萬着生産 上田染織試験場ではスワ混織布の種であつたナフトール染の特許方法を完成縣下當業者に對して指導獎勵に當ることとなつたが更に今回は絹織物、ホームズパンの製織に向つて一層努力を掛けることとなつた。ホームズパンは縣下四十餘の組合で五ヶ年計劃で綿半五萬頭飼育し一年二萬着の服地生産の實現を目ざして詳細なる計劃を樹立中である。

上田物價概観 上田商工會議所調査十五日現在市内の物價指數は前月を一〇〇とすれば一〇〇・七に當り調査品目五十三品中騰貴十二、低落三、保合三十八となつてゐるこれを八大類別に平均指數の高いものから並列すると衣料品一〇三・三、建築材料一〇二・二、肥料類一〇一・三、雜類一〇〇・四、調味嗜好品一〇〇・三その他前年同期を一〇〇とすれば一一

〇・八となつてゐる。

上田の戸數割 上田市に於ける本年度の特別戸數割各人賦課額は稅務課に於て原案が決定したのが昨年度の所得總額四百三十二萬一千五百二十六圓に對し今年のは約五十萬圓の増加である。本年の特別市稅戸數割は十六萬一千三百餘圓で一人平均二十圓七角、前年比一〇・一八二圓の負擔増加である。

千曲川の鮎解禁 南佐漁業組合では廿五日上小組合鮎解禁のハヤ五萬尾を千曲川へ放流したが成績極めて良好である尙鮎漁解禁は七月一日から鮎發賣は良好である。

上小座繰繰進 上小地方では釜數整理で有力製絲の國用絲絲が急減した結果座繰製絲時代が出現した。この傾向は昭和十年頃から顯著になりつゝあつたが本年に入つて殊に一層の増加を見、主として繭賣業者を中心にして家庭工業程度の營業者が到る所に出現してゐる。再繰所の統計のみに依つても十一年度扱ひ絲量二千五百五十五、十二年度は三千五百三十六本年は四千貫を越へる見込である。

飛行演習 濱松飛行隊の將校八名以下約九十名は九、十日の兩日上田飛行場を中心として演習を行ひ市内に分宿して十一日に歸郷した。

部隊長に感謝打電 遠山部隊閉封一番乗占領の報に上田市は全市民歡喜と感激に沸き返り同部隊將士の勞苦に深く感激してゐる市會に於て萬場拍手を以つて打電を決議遠山部隊長宛電報を發した。

坂城繭絲の最高價 春繭出荷最盛期に坂城繭絲が廿一日に一貫五圓三十二錢と言ふ高値が出た。本年春繭の縣下に於ける最高記録で出荷繭は十五貫餘品種は同地方で本年初めての試みとして擧げられた龍華仙×浙江と言ふ新品種である。

貯金特別取扱 上田局では貯金報關週間の二十五、六日の土曜、日曜には特に貯金、保險年金に限り平日通り受入事務を行つた。

上小春繭界の異變 上田、小縣地方の春繭は勢力不足から擧立量は昨年比し五割を減じたに拘らず天候順調と力強い後勢力率仕の完璧に依り收購量は昨年の四十二萬貫に對して僅に三割減と言ふ好成绩を來しこれが産繭を繞る特約組合、繭市場組合製絲の爭奪戦は戦前から特約組合は案外不成績を示し、年々衰退の一途を辿りつゝあつた繭市場が俄然物凄く活況を示すと云ふ異狀な現象を呈

し注目を集めてゐる。右につき上田製絲支所では、特約組合は昨年が絶頂で擴張時代から實質時代に入つたことと製絲組合改組に依る契約漏れが減少の現象を呈したがこれの昨年に比し五割減少ではあるがこれが全部繭市場へ出廻るものと謂つてゐる。

夏繭擧立 上田製絲支所では本年春繭期の殘量について調査中であるがこれに残繭は當然夏繭期へ使用されるものと見られるので夏繭擧立量は例年に比し約三割の増加である。

鮎人工孵化に成功 上小漁業組合では本年の新しい試みとして鮎の池中放養を行ふことになり二萬尾を去る四月下旬上田市の試験池に放養した所滿一ヶ月前後を経て早くも一匹平均六、七匁の重量を示し大々さきも四寸平均の發育を遂げ大成功を見せたので明年からは各地に放養所を設置する計劃である。又難事業としてゐる鮎の人工孵化も本年は千五百萬尾の發生を見大成功を収め組合管下各地川筋に配給放魚中だがこれ等川魚の各種人工的な飼育法の成功は水産技術に畫期的な大飛躍と言はれてゐる。

桑園を果樹園化 上田市農會では先年來市郊外農地帯の果樹園化に着手成績を擧げつゝあつたが更に本年から養蠶代作物取入れの積極化に乗り出すことに成り市北方太郎山麓に廣大なる傾斜面を有する大星河原一帯五十町歩の果樹園設置五ヶ年計劃を樹てることになつた。農會では取敢へず市内に於ける林檎、柿、梨、葡萄等一般果樹類の基本調査を開始植付計劃を樹立の上今秋乃至明年に亘つて一齊栽植に乗り出すことになつた。更に間作としてサフラン、アスパラカス等特種開墾作物を下植する計劃もあり時期柄期待される處が多い。

新任縣總務課長着任 新任西村本縣總務課長は十八日午後一時三十分長野縣庁に來任城山、妻科兩縣に參拜後縣廳に大村知事を訪れ新任の挨拶を行つた。

山の物價表 北アルプス後立山連峰關係旅館並に今シーズン料金金は去る十一日の新銀主權夏山登山打合會で左の如く決定十四日發表されたが昨年に比し大体一割餘の値上げである。

△白馬岳方面

旅館名	宿泊料	辦當代
四ツ谷旅館	二〇〇〇以上	三〇〇〇
大池小屋	二五〇〇	四〇〇〇
二股旅館	二〇〇〇以上	三〇〇〇
猿倉小屋	一、八〇〇	三五〇〇

白馬尻小屋 二、五〇〇 三五、四五〇  
白馬村營 二、三〇〇 四〇、〇〇〇  
白馬山莊 三、五〇〇 四〇、〇〇〇  
白馬山莊 三、五〇〇 四〇、〇〇〇  
南殿小屋 一、八〇〇 三五、五〇〇  
唐松小屋 三、〇〇〇 四五、五〇〇  
針の木方面

大町旅館 一、五〇〇 二五、〇〇〇  
大澤小屋 二、〇〇〇 三五、〇〇〇  
種池小屋 二、〇〇〇 四〇、〇〇〇  
冷小屋 二、〇〇〇 四〇、〇〇〇  
八峰小屋 二、〇〇〇 四五、五〇〇  
尚大町案内組合の案内料は普通日當二圓五十錢、天幕自炊三圓、四ッ谷案内組合普通日當二圓五十錢、天幕自炊二圓五十錢である。

上田縣新選四倍以上の激増 上田縣には十一日をトップに廿二日までの十二日間に四千五百五十五本の新繭到着し昨年の同日までの九百六十本に比較して三千本以上の大激増でこれはガソリンの使用制限により自動車運賃暴騰による結果と見られて居り夏秋蠶を通じて昨年より五割増を豫想されてゐる。

上田市長 市長選挙の上田市緊急市會は二十四日午後三時十分開會市長選挙の件を上程し議長指名に依り四代目市長に伊藤傳兵衛氏を選出した。こゝに五月七日成澤市長満期退任以來約一ヶ月半に亘つて空席の上田市長は正式に決定した。

女學生の下駄履き登校 上田高等女學校では早くも軍需資源としての皮革製品使用制限の國策に順じて女學生の登校には下駄使用を認める事に方針を決定した。更に縫製品使用節約の立場から夏期には女學生の着下を使用しない事も認め校内では使用させない事になつたのでこゝにセーラー服に下駄ばきと言ふ十年前の女學生姿とノーストッキングの尖端スタイルの女學生とが入りまちつて上田市に非常時風景を現出し母校でもこれにならつて地下足袋、ズック靴を履く事になるものと見られる。

お化櫻 上田裁判所に珍らしい櫻が発見された木はまだ四五五年生の若い八重櫻だ。それが晩春から秋の中頃までゴッソリとツリと年がら年中花が咲きその花の若い雌雄蕊がなく二枚の心葉とその他の若い葉が花の中心に重なり合つて居り而もその花が五枚の花筒のない萼の上に三つも四つも一團となつて一つの花を造つてゐると言ふお化のやうなもので裁判所でも誰か植物學に詳しい人に見て貰ひ天然記念物に指定しやうと言つてゐる。

篤志看護婦人會結成 上田市上流家庭の婦人は進んで傷病兵の看護に勤かうと篤志看護婦人會を結成廿一日午前十時から公會堂に發會式を舉行した。同會は戦時下において必要の場合は直に看護の一線に立ち平時にも赤十字運動に活動し様と言ふ趣旨で結成のトップである。

菅平乗馬俱樂部 菅平に牧場を有する北信牧畜組合では今同菅平に於て乗馬思想普及獎勵のため乗馬俱樂部を設立することになつたが七日具休案を農林大臣に補助の申請を行つたその計劃の内容は約一万坪の敷地に馬場を新設し二十頭の馬匹を收容する大規模の厩舎二棟の外これに附屬する事務所其他建物及設備を行ひ菅平夏季滞在者及登山者のため廣く開設利用せしめんとするものである。

木炭バス御目見 上田温泉では燃料國策に即應して同社バスに木炭がス發生機を取付けた木炭自動車運轉すべく兼ねて註文中の發生機が到着早速取付て試験を行つた結果上成績なので九日より青木線に運轉一日六往復する事になつた。

グライダー格納庫 日本航空青年團は八月一日から菅平高原にグライダー練習を行ふことになつたが今回同地にグライダー格納庫を建設すべく地元上田温泉に對して土地の借入方の斡旋を依頼して來たので同社柳原營業課長は菅平北信牧畜組合と交渉の結果同地文部省体育研究所附近に廿二間に七間と言ふ巨大な格納庫を建設する事になり七月下旬より着工の運びとなつた。この格納庫の建設に依り霧ヶ峰よりコンデションの勝れであるが菅平に常設練習所が出来るのではなかつたかと見られてゐる。

省バスで郵便物交換 鳥居峠の開發以來本縣と北上州一帯の物資交換は素晴しに交通を遂げ殊に省バス開通に伴つたが今回更に兩縣民待望の郵便物直通が實現される事になつた。從來本縣と北上州を結ぶ郵便物は悉く草津鐵道を經由して二日乃至三日間要する状態であつたが本縣側上田商工會議所、上州側吾妻郡の共同陳情に依つて來る二十一日から省バスに依る郵便物扱ひが實施される事になつた。この然も双方共に一日二回の集配が行はれる事となつた。上州側は堀野郵便局本縣側は小縣郡長村真田局に於て夫々行はれる計劃であるがこれを機会に兩縣のタイアップは一層緊密を加へるものと期待されてゐる。



母校ニユース

東京高蠶生來訪　東京高等蠶絲學校養蠶科二年生約四〇名は木暮教授に引率されて上田、長野、松本の養蠶關係視察旅行の途次、六月十九日(母)校生を訪問し、校内に一巡見學後母校蠶二生生徒主催の千曲會館に於ける歡迎會に臨み正午長長野に向つた。同歡迎會には井上校長始め遠藤課長、佐藤科長、佐藤、蒲生教授、山口助教、宮坂講師が出席された。

絲三生徒蒲野君應召　製絲科三年選科生蒲野育郎君は先般校外實習に出てゐた

ある。

蠶二生徒長野松本見學 春蠶飼育實習を終へた養蠶科二年生三十二名は六月二十一日宮坂講師、鑑察副手引卒の下に午前七時上田東驛をバスにて出發九時半長野着十時より農事試験場、蠶業試験場、測候所、放送局等を見學午後六時歸校した。蠶業試験場では水井場長の本願蠶業情勢に關する講話があつた。

次いで二十六日には蒲生教授、關副手に引卒されて午前五時四十分上田驛發にて

二十三日には公園内富貴にて校内職員にて送別會を開いたが席上岡先生の明朗さと健康さと言ふか實力と言ふものが益々々々強く感ぜられた。二十八日午前十時三十分分母校職員生徒は勿論、上小關係者多數の見送りを受けて上田驛發高崎に掛任された。

山田瓦人氏講師となる 本年四月より母校養成科に勤務する山田良人氏（製絲一八）は六月二十三日附を以つて講師となり養成科の數學、物理學、製絲論、關

月庶務課に轉ぜられた田玉龜太郎氏は、  
回六月三十日付を以つて書記に昇進され  
た。同氏は本年四十五歳で新進銳銳とは  
申されないが母校に就任以來十五年間  
に忠實に熱心に努められた。益々張り切  
つた氣持で御勤め下さることを希む。

絲一夏蠶飼育實習 例年の如く製絲科  
一年生は一學期授業終了後引續いて七日  
日より養蠶實習に入つた。各人蠶量  
五瓦宛で擔任指導者は佐藤春太郎教授  
小林、市原兩副手である。

謹啓時局愈多難の折柄皆様益々  
 御健勝之趣奉大賀候陳者私儀今  
 般都合に轉居仕候間倍舊の御厚  
 校官舎に御來駕の節は是非共御上  
 詣賜はり度候節は是非共御上寄  
 被下度御待申上候  
 右乍紙上暑儀御挨拶申上度如斯  
 御座候

七月七日

上田蠶絲専門學校官舎  
 山口定次郎

昭和十三年度製絲科二年生校外實習  
派遣先及學生氏名

母校之部

所 在 地	岩手縣岩手郡本宮村 山形縣宮內町 仙台市 福島縣須賀川町 栃木縣小山町 熊谷市 甲府市 小諸町 新潟縣北魚沼郡湯之谷村 靜岡市 前橋市 岐阜市 山形縣宮內町 福島縣須賀川町 高崎市飯塚 前橋市外元總社村 全	名 稱	岩手縣齋檢定所 山形縣全 宮城縣全 福島縣全 栃木縣全 埼玉縣全 山梨縣全 長野縣全 新潟縣全 靜岡縣全 群馬縣全 愛知縣全 岐阜縣全 多勢丸多製絲場 笠原組須賀川工場 碓氷社高崎製絲工場 群馬社 全	須賀川支所 小諸支所	學生氏名 櫻政洪 姜鎮毅 田代毅 中川力男 金子肇 飯田國藏 川瀬泰宏 中村廣 小田己年生 山口亮祐 高橋一郎 松野正 土居芳樹 海野輝男 稅田廣喜 狩野安平 田中信重 御子柴希太郎 岸本悅太郎 若林享 河野英剛 小林剛 岡田廣太 高尾三代治 牧野德太郎 諏訪幾久男 笹川嘉隆 湯本益次郎 寒河江武 竹內五郎
-------------	---	--------	---	---------------	--

待望久しきレコード成る。

鈴塚先生の肉體は眞に迫りて恰も親しく嚔咳に接するが如く、校歌三唱、亦、自ら懷舊の情、感激の淚禁する能はざるものあり、新作の校友會歌は現代樂壇の巨匠橋本邦彦先生畢世の力作にして、歌風の典雅、調子の勇壯なる、歌詞と共に克く上田の環境と魂とを歌ひ得て餘りあり。

凡そ母校に關係を有する者は蓄音器のあるさなしに不拘之を座右に備へざるべからず。

已に各地の同窓より絶大の好評を獲たれば敢て之を會員各位に奨む。

修己寮の先輩諸氏に告ぐ

謹啓時下盛夏の候愈々御馳勝の段奉賀上候  
 陳者修已祭炊事夫として昭和四年四月より本年三月迄勤務せる萩原清次老夫妻は  
 一身上の都合からして退かれ市内常入に暮さるゝ事と相成候、氏が十一年の長きに亘  
 り實直に勤めたる勞を犒む度尙老齡の事として適當なる職は無く別段蓄へとも無  
 り之實に氣の毒なる状態に有之候爲め修已寮に起居を共にせる有志一同にて記念品  
 を兼ねた物を贈り度き様へに御座候、左記に依り之が資金を募集致度候間何卒御賛  
 同賜り度此段奉願上候

敬白

公立實業學校長 櫻井 吉利  
年功加俸年額金壹百九拾貳圓下賜

<p>農蠶科勸務員 白倉一</p> <p>六月二日 休操教師囑託 石井清司</p> <p>六月八日 學生課勤務ヲ命ス 小山和夫</p> <p>六月二十三日 兼講師ヲ囑託ス 副手 山田良人</p> <p>臨時副手ヲ命ス 新野元治郎</p> <p>農蠶科勸務ヲ命ス 六月三十日 雇 田玉龜太郎</p> <p>任上田蠶絲專門學校書記 給八給俸</p> <p>給一給俸 助教授 日崎三郎</p> <p>給七級俸 全 小林尙一</p> <p>給五級俸 全 清水運策</p> <p>給五級俸 全 春原良太郎</p> <p>卒業生之部</p> <p>地方農林技師 藤勝四郎</p> <p>山口縣農林技師ニ補ス 正六位 鶴田正平</p> <p>彼勳六等授瑞寶章(以上六月三日)</p> <p>朝鮮公立實業學校教諭兼朝鮮公立實業學校校長從七位 伊藤喜代</p> <p>任朝鮮公立實業學校校長兼朝鮮公立實業學校教諭(六月九日)</p> <p>公立實業學校校長 櫻井吉利</p> <p>年功加俸年額金壹百九拾貳圓下賜(四月二十九日)</p> <p>休職公立實業學校教諭 今井 衷</p> <p>願ニ依リ本職ヲ免ス(六月十八日)</p> <p>正七位 金崎眞英</p> <p>同 田浦 準</p> <p>從七位 萬石安太郎</p> <p>同 安川 寛</p> <p>綾正七位(以上六月十五日)</p> <p>生絲検査所技師 竹内五之助</p> <p>六級俸下賜依願免本官 蠶絲試驗場技師 松村季美</p> <p>五級俸下賜(以上六月三十日)</p> <p>母袋忠右衛門</p> <p>任陸軍輜重兵少尉</p> <p>公立實業學校教諭 深谷 正一</p> <p>高等官五等ヲ以テ待遇セラル</p> <p>地方農林技師 佐藤良太郎</p> <p>願ニ依リ本職ヲ免ス</p> <p>農林技師 田口敏夫</p> <p>日本中央蠶絲會主催第六回精新製品競技展覽會審査官ヲ命ス(以上七月一日)</p>	<p>農蠶科勸務員 白倉一</p> <p>六月二日 休操教師囑託 石井清司</p> <p>六月八日 學生課勤務ヲ命ス 小山和夫</p> <p>六月二十三日 兼講師ヲ囑託ス 副手 山田良人</p> <p>臨時副手ヲ命ス 新野元治郎</p> <p>農蠶科勸務ヲ命ス 六月三十日 雇 田玉龜太郎</p> <p>任上田蠶絲專門學校書記 給八給俸</p> <p>給一給俸 助教授 日崎三郎</p> <p>給七級俸 全 小林尙一</p> <p>給五級俸 全 清水運策</p> <p>給五級俸 全 春原良太郎</p> <p>卒業生之部</p> <p>地方農林技師 藤勝四郎</p> <p>山口縣農林技師ニ補ス 正六位 鶴田正平</p> <p>彼勳六等授瑞寶章(以上六月三日)</p> <p>朝鮮公立實業學校教諭兼朝鮮公立實業學校校長從七位 伊藤喜代</p> <p>任朝鮮公立實業學校校長兼朝鮮公立實業學校教諭(六月九日)</p> <p>公立實業學校校長 櫻井吉利</p> <p>年功加俸年額金壹百九拾貳圓下賜(四月二十九日)</p> <p>休職公立實業學校教諭 今井 衷</p> <p>願ニ依リ本職ヲ免ス(六月十八日)</p> <p>正七位 金崎眞英</p> <p>同 田浦 準</p> <p>從七位 萬石安太郎</p> <p>同 安川 寛</p> <p>綾正七位(以上六月十五日)</p> <p>生絲検査所技師 竹内五之助</p> <p>六級俸下賜依願免本官 蠶絲試驗場技師 松村季美</p> <p>五級俸下賜(以上六月三十日)</p> <p>母袋忠右衛門</p> <p>任陸軍輜重兵少尉</p> <p>公立實業學校教諭 深谷 正一</p> <p>高等官五等ヲ以テ待遇セラル</p> <p>地方農林技師 佐藤良太郎</p> <p>願ニ依リ本職ヲ免ス</p> <p>農林技師 田口敏夫</p> <p>日本中央蠶絲會主催第六回精新製品競技展覽會審査官ヲ命ス(以上七月一日)</p>
--	--

一、代價	一、申込場所
<p>1. 代價金            2. 手数料            3. その他</p>	<p>1. 申込書            2. 申込金            3. その他</p>

一枚 金貳圓 (荷送り送料共)  
本會内久保藤一宛  
申込と同時に現品發送す

一、金額 壹圓又は其以上  
 一、拂込期日 八月末日限り  
 一、送金先 (書面にて御依頼申上候分りも八月末日限りに延期致候間御了承相成度候) 上田蠶絲専門學校内 山田良人宛  
 一、便宜上振替口座(長野六式四番番)御利用せられ萩原清次記念品資金なる旨御明記願上候  
 一、贈呈方法 發起人に御一任相成度候  
 昭和十三年七月

發起人 紡織絲絲 八十八 小高 橋 井田 林 眞 二人一澄

絲蠶絲絲絲紡  
二二二二十  
十十十  
五四二八八七

外望清松山小高  
月水井田林橋  
城  
藤英憲良尙眞  
和夫一二人一澄

申込額	一口三圓	一口以上但し準會員は一
拂込期限	七月十五日	(口數にて申込むこと)
送金先	十月末日	
領收證は時報に掲載	本會宛	(振替口座長野六二四三番)
贈呈方法	之に代ふ	
	今秋代議員會	
	理事者一任	
	以	

鈴木	泰一	山本	賢市	傳田	靜夫
淺川	茂樹	前島	正直	奥村	忠治
田澤	輝雄	丸山	保夫	土岐	茂次

金六拾圓也	森田三郎
金拾拾圓也	高須兵司
湯川秀夫	高木三治
石井謙三	山岸松次
金貳拾四圓也	矢澤茂登一
伊藤清	飯島直
金拾八圓也	佐谷月健次郎
浦山藤吉	峰村壽命
金拾五圓也	坂田榮樹
藤崎鐵	櫻井吉利
弓田弘平	森本爲之助
永田種龜	勝又藤夫
原田繁治	母袋良平
宮川紫治	內藤源一郎
酒井五三	岡村源一
依田寛之助	若林新一郎
小林良亘	小松忠一郎
金拾貳圓也	小澄晋
大崎征仁	小山恵治
和田晋	有賀康人
櫻井隆夫	島倉惣次郎
金九圓也	宇多泰藏
雨宮茂	遠藤正壽
市川敏三	山口亮平
大山融	山浦卓郎
利田益巳	鈴木開亮一
川村五郎	玄丸精一
武井一郎	六川忠一郎
金六圓也	高山長五郎
	中尾小太郎
	戸倉惣兵衛
	味澤泰造
	北澤忠
	栗林悦
	中島茂
	松谷銀之助
	山本靜太郎
	山中岩三郎
	金崎眞英
	津野善博
	瀧口昇
	小宮山太助
	彼末武猪
	山岸武
	藤本衛佐雄
	渡邊康平
	小山啓三
	中澤二郎
	西原淳一
	坂口芳文
	永井俊郎
	成尾喜八郎
	安井健一

鈴木泰一	山本賢市	傳田靜夫
淺川茂樹	前島正直	奧村忠治
津川輝雄	丸山保夫	土岐茂次
吉賀哲雄	黑岩京次郎	藤井溫彦
服部彌一郎	市原文雄	丸山泉
齋藤猪之作	市原正	濱田浩
山岸恒一	金相巖	尾崎利雄
山内一次	佐々木峯二	松村惠一
一之瀬茂	岩田久太夫	羽田信二
花房清一	平田時江	市川信二
島田博	松永義徳	矢野進
伊藤一義	淺川茂樹	白鳥竹利
原みつ子	若林康弘	多川澄平
金貳圓也	古谷力ナエ	上條理
龜井俊子	榊原弘子	飯森とし子
金壹圓也	久恵	黑澤壽喜子
金壹圓也	久恵	合計金壹千參百五拾四圓也

本會日誌

六月十四日 時報發行日臨時變更屆提出

清水先生本會へ御寄附

六月二十二日 松山高商同窓會(會費及事業其他の件)回報す  
六月二十五日 故飯田喜雄、故棚原敏男兩氏御遺族(有志弔慰金)贈呈す  
七月二日 茨城縣下の水害に對し佐藤支會長宛(見舞狀)發送す  
七月四日 靜岡縣下の水害に對し戸倉支會長宛(見舞狀)發送す  
七月六日 夏季校外實習生派遣に付關係支會長へ(依頼狀)發送す

名古屋市工業指導所染織部長清水寛孝先生に對し此の程本會有志より退職記念品を贈呈せる所、先生は之に對し深甚なる感謝の意を表され直ちに本會に對し鄭重なる禮狀に添へて、何か有用の事に使用され度しとて金五拾圓之の寄附を申込まれた。依つて本會は之を理事會に贈つて有難く受納し、特に先生の御意志を汲み、千曲會館に於ち其他の設備品を新調し永久に先生の人格を記念する事にした。

應召者並に召集解除者に就て御願ひ

一、應召者に就て  
本紙會員動靜欄以外に應召會員御承知の方は左記事項至急本會迄御一報願ひます。尙今後應召された場合には御家族は勿論會員にして御存じの方は速かに御通知下さる様特に御願ひ致します。

1. 應召者氏名

2. 家族の現住所及氏名(留守中通信先)

二、召集解除者に就て  
召集解除となつて歸郷せられし者又は元の勤務場所へ復職せし際は直に御一報願ひます。

出征會員慰問資金募集

出征會員慰問資金募集に就て御願ひ致します。昨年代議員會に於て決定せる慰問事業實行のためには尙多額の經費を要します。目下第一線に活躍せらるゝ我同密勇士に對しては實に感謝感激の至りに堪へません。何卒本會設立の趣旨御諒承の上奮つて御献金賜はらん事を御願ひ致します。

銃後資金寄附者 第七回

金參圓也 三浦重雄  
金貳圓也 飯田儀作  
金壹圓也 吉田信悟 本多武  
右合計金七圓也  
累計金六百八拾壹圓五拾錢也

會費領收

(七月一日現在)

昭和十三年度會費金四圓也

金崎眞英(蠶九) 中島文雄(蠶九)  
 中島茂(蠶十) 佐藤義助(蠶十)  
 北島正吉(蠶十) 安川寬(蠶十)  
 丸山十吉(蠶十) 宮城博(蠶十)  
 金子幸一(蠶十) 内田訓之亮(蠶十)  
 佐村和夫(蠶十) 中曾根長男(蠶十)  
 坂本朝平(蠶十) 山本誠(蠶十)  
 坂下龍哉(蠶十) 井澤喜三(蠶十)  
 坂口正信(蠶十) 六川忠一郎(蠶十)  
 山本賢市(蠶十) 村田一由(蠶十)  
 島倉賢造(蠶十) 工澤實司(蠶十)  
 依田寛之助(蠶十) 湯澤重敬(蠶十)  
 牧野春雄(蠶十) 若林新一郎(蠶十)  
 山本奈良三郎(蠶十) 青木友彌(蠶十)  
 金野巖保(蠶十) 櫻井阜三(蠶十)  
 兒玉來(蠶十) 岩田正(蠶十)  
 松井正次(蠶十) 彼末武猪(蠶十)  
 星野拓弘(蠶十) 萩原國雄(蠶十)  
 磯部英一(蠶十) 鷹野誠一(蠶十)  
 片倉二郎(蠶十) 湯倉美義(蠶十)  
 宮倉靜三(蠶十) 陽淺文雄(蠶十)  
 小口伊祐(蠶十) 林秀門(蠶十)  
 河合式太郎(蠶十) 宮原秀人(蠶十)  
 千曲會則第九條第一項中第三號に依る十三年度會費金四圓也 野口新太郎(蠶十)  
 中澤勝也(蠶十) 弓田弘(蠶十)  
 中島靜太郎(蠶十) 丸山忠良(蠶十)  
 佐々木峯二(蠶十) 井上一郎(蠶十)  
 大塚重藏(蠶十)

千曲會則第九條第一項中第三號に依る未納會費納入者

金拾貳圓也 細川三郎(蠶十)  
 金五圓也 猪坂直一(蠶十)  
 又木善義(蠶十) 小笠原精三(蠶十)  
 金四圓也 尾見祐八(蠶十)  
 父母仙藏(蠶十) 榊原春彦(蠶十)  
 一時金貳拾圓納入者 三浦重雄(蠶十)  
 櫻井吉彦(蠶十)  
 榊原春彦(蠶十)  
 金拾圓也(内入) 岡村源一(蠶十)  
 未納會費金四圓也 高木修(蠶十)  
 中澤喜雄(蠶十) 佐村和夫(蠶十)

## 資金募集急告

之候

井

育資金申込分報告

松原幸彌太 山岡

育資金拂込分報告

鈴木玄九門

資金申込分訂正報

通計金千六百七拾

農學千曲會だより

なりしか御上京が  
つた。

## 湯原諄兩氏よりの

完備、蠅も蚊も居

## 歡迎會

に残した。(今井)

(六月廿九日校長出)



戰地便り

清水 洗氏より

初夏の候と相成候。其の後には意外の御無沙汰致し候へども、先生には御變りも無之候や。誠に御何し申上候。次に今般愚弟の件に關しては格別なる御配慮を給はり衷心より難有厚く御禮申上候。去る五月八日以来興動に異動を重ね爲に弟の件に關しては最近に至り初め承知したる次第に有之候。御禮を以て小生は無事現在〇〇に於て勤務致居候間乍他事御休心被下度候。當方は現在内地の盛夏の如き高温に候一兩日來の正午の気温は必ず九十五度を突破致居候。甚だ風華には候へ共御禮申上度如斯御座候。乍末筆先生の御健康を衷心より祈上候。

(五月二十三日、校長宛)

河田榮一氏より

十日新郷よりの便りを最終にして其れ以來は野戰郵便局の設備なき戦場に入りしため兎角の御無沙汰申上候。有りませむ。十二日午後黄河の北岸にて漸く部隊に追ひ付き第三大隊の第十二中隊を命ぜられ、〇〇方面に廻りし爲に中隊に入る事出来ず二十一日に到つて初め自分の部下に面會出来る様な有様です。二十一日までは聯隊本部に在りて數度の激戦にもあたかも觀戰武官の如く悠々たるもので、黄河の流は聞きしに勝るもので到底内地にては想像も困難な程の濁流で出發當時一杯飲み度いものとの念願も遂に放棄しました。その他支那の風光其の他申し上げ度い事もありますが或る(事情後書き)のため書き得る時になつたら書きます。

二十一日初隊に到着し二十二日には最初の戦闘あり二十三日、五日の夜までは〇〇沿線〇〇の東約〇〇里の〇〇と云ふ小部隊で三日二夜中隊を以て(中隊長は病氣のため北京に有り古參の故に中隊長を代理です)約千二百の敵の包圍下に激戦を交へ越へて二十七日〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇と云ふ部隊の攻撃に從ひ午後〇時半頃戦闘開始二時四十五分後には負傷しました。當時敵は有力なる火器を有する千二、三百名の戦友より開くに北京漢口沿線の戦闘では日本軍が突撃をすれば直ぐに逃げるに云ふ事でしたが黄河以南の敵は仲々頑強に突撃しても逃げればこそ反つて逆襲にも出て来るやうな強い正規軍でした。敵前約百米突撃準備の爲五十米程前進を命じ先頭立つて前進しやうとした瞬間に先頭立つたのです、二十七日負傷し同日野戰病院に入院

計 報

笠原松平君の戦病死を悼む

内山 鶴 雄

四月十一日午後四時頃、笠原君が今朝四時四十五分天津の野戰病院に於て戦病死すとの訃報に接した。其の報知の餘りに早くと君が病氣に罹つた知らせも聞いてゐなかつた故約一週間位は眞實とは思はれなかつた。然し何日何時何分と病院名迄通知して來たのを考察する時眞實とは思はれた。夫れは朝鮮に居る實弟が危篤の報により天津に馳つけ兄の死に至るまで看護して居たと云ふ。此の實弟よりの電報と聞いて漸く笠原君の死を信ずるに至つたのである。

中里特務兵よりの笠原松平君の殊勳の便り

前略取り急ぎ一筆御報らせ致します。

私達は〇月〇日〇〇を出發して現在〇〇に至り至極元氣に軍務に精勵して居りますから御安心下さい。内地も既に春も附となりまして櫻の花も時世も外に咲き亂れて居ります事と存じます。それにつけても只私は笠原さんの事が心配でなりました。實はもと以前に御報らせねばならぬと思つて居りましたのですがみなさんが心配するの、亦私もそれ程と思つて居りませんでした。別に心配もせず今に至るまで何とも書かずに居りました。當に申上りませんが丁度です。

三月十九日我々部隊は〇〇に向ふ途中永定河の水が氾濫し堤防決壊して〇〇に通ずる道路は濁流にて通行全く不能なりました。〇〇に通ずるには外に絶對に道無く然も此の濁流を乗切るに一般の舟さへ見當らず、若しこの濁流を乗切る事無く徒らに傍觀するのみに於ては我々部隊は勿論援護〇〇部隊に至るまで〇〇に通ずる連絡全く不能。部隊將兵一同糧食缺乏し一時もゆるがせに出来ない事態に陥つてしまひました。

當時笠原さんの取つた行動は全く武士とはじめ並み居る將兵一同絶對的の目的を以て無謀な行爲は生理的に決して害を與へないでは置かれました。翌日から發熱し平常ならばゆつくりと静養する状態でしたのが、あの氣性の笠原さん故無謀の事を承知し、過勞に過勞を押しつゝ遂に五日間を働き続けました。然し熱は依然として下らず遂に就床するに到つてしまひました。〇月〇日我々が〇〇に向つて出發する時笠原さんは部隊と同一行動を取る事はすばらしい戦友と別れ野戰病院の人とならなければならなくなつてしまひました。

笠原さんは私と別れる時元氣でした。身の廻りの品物をすつかり取りまゝめて自動車側まで見送りしました。大丈夫だ直ぐ歸つて来るよと言ひましたが流石に四十度二分の高熱の爲随分苦しうでして、私が早く歸つて来る様待つてゐるよと言ひました時後を顧むと云つて割合元氣でした。我々部隊が〇〇に到着し今日か明日かと笠原さんの歸るのを待つて居りました。戦友から笠原さんは聞かれます。何う直ぐ歸つて来るだろうと何の氣なしに言つて居りました。それでも心配になりまして軍醫殿にも笠原さんは大丈夫でせうかと時々聞きました。ですが軍醫殿も大丈夫だと言ひました。どうも申され居りましたので左程に想つて居りませんでした。

今〇〇にあつて肺脊髄膜炎にて重症の報を開き私は魂の抜け殻の様になつてしまひ相です。何とみんなに書いて良いやら自分は何と書いてゐるのやら全く分らない様な何かでうんと頭をなぐりつけられた様に思つて居りました。止めど無涙が手紙を書いて居りました。皆様何卒御察下さい。

笠原さんの容態の事で胸がはち切れ相です。死んではいけな死んではいけな私は想はず外にふらふらと出て月に向つて手を合はすには居られませんでした。皆様定めしつくりするかも知れませんが、若し萬一の事がありましたらいや私は今そんな事は考へてくれないです。只々一生懸命全快を祈るだけが總てです。



暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 井上柳梧	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 針塚長太郎	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 和仙太郎	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 石倉新十郎	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 遠藤保太郎	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 佐藤利一
暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 原田親雄	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 岡德次郎	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 佐藤春太郎	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 古谷榮藏	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 行元自忍	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 奧正巳
暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 松岡重三郎	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 小泉所	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 志田敬夫	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 小林清丸	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 內藤榮吉	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 依田啓藏
暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 清水運策	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 春原良太郎	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 田玉龜太郎	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 森健二	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 依田誠	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 小山和夫
暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 宮本英雄	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 宮內智				

弔慰金募集  
故松原敏男氏弔慰金第五回  
右合計金四圓也 倉澤美徳、千曲會  
故松原順策氏弔慰金第五回  
右合計金四圓也 山岸寅雄  
故手塚達郎氏弔慰金第二回  
右合計金四圓也 六川忠一郎、市原文雄  
故伊藤清男氏弔慰金第二回  
右合計金五圓也 山口貞一、岡村源九  
故松原平氏弔慰金第二回  
右合計金五圓也 高橋誠、佐藤季子男  
故清水衛敏弔慰金第二回  
右合計金五圓也 滋野文雄、猪俣  
故松原一氏弔慰金第二回  
右合計金五圓也 北野三郎、山本賢市  
故松原三郎氏弔慰金第二回  
右合計金五圓也 依田寛之助  
故高木晋氏弔慰金第一回  
右合計金四圓也 大山融  
故新村三氏弔慰金第一回  
右合計金四圓也 左記氏名連名にて  
小岩井桂三、永井康、三谷勝介  
倉澤源太郎、有賀康人、竹内健二  
金貳圓也 宮原誠治一人  
金貳圓也 荻原清治一人  
右合計金貳拾八圓也

弔慰金報告

千曲會

暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 萩原清治	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 山田良人	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 古平庄衛	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 山崎嘗錄	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 小松忠幸	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 日幡暎一	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 野口新太郎	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 小松忠一郎
暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 阿久澤孝典	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 宮下丈夫	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 高橋眞澄	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 小林尙一	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 小澤利雄	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 磯村敏子	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 柳澤連子	暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 三戸部満
暑中御見舞 昭和十三年盛夏 上田蠶絲專門學校 關かほる							

會員動靜 (七月五日)

小山和夫(現職) (勤)本校學生課(住)上田市中常田、村井房吉方 (勤)留守高崎歩兵一五聯隊長	谷井清司(現職) (勤)長野縣社會教育課(住)長野市妻科二〇四 (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	鶴田定平(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	岩本市郎(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	小澤周一郎(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	山口定次郎(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	内田訓之亮(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	小山哲夫(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	中澤二郎(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	六川忠一郎(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	白川孝昌(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	新野元治郎(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	渡邊忠右衛門(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	若井孝昌(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	正木章三(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	越英三(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	稻垣文二(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	清水健二(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	東島藤次郎(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	石松宗久(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	尾崎久(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	廣瀬廣一(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	山内龍一(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	千葉一雄(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	岩崎正典(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	淺山茂樹(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	田玉とよ子(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	高橋ふみ子(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	宮本ふみ子(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	伊藤幸枝(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	廣瀬幸枝(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	飯島政江(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	白井和子(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	平田時江(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	藤森ふじ子(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社	柳澤ときわ(現職) (勤)盛岡市內丸、岩手縣經濟部蠶絲課(住)盛岡市住吉神社
---	--	--	--	---	---	---	--	--	---	--	---	--	--	--	---	--	--	---	--	---	--	--	--	--	--	---	---	---	--	--	--	--	--	---	---

編輯室より

△暑中御見舞申し上げます  
昭和十三年盛夏  
千曲時報編輯部

△諸所の潤候所で二十年或は三十年來の大雨だと悲鳴を擧げた所、或は三十年來の長雨には憂鬱を越えて腹立しくなつた。そして上田では一寸想像付かない悲慘なる水害が諸所方々に有つたが幸に同窓諸兄には被害がなかつたうか。

△旅から歸られると贈物が待つて居ると言つた御多忙の林先生が第一面の「鮮満支視察談」掲載の勞をとおつて下さつた。之は先生の報告談を編輯員が速記した先生が御校閣下さつたもので、あちら人の悪評の如きは省いた故、おまじの感があるかも知れぬが御推察を乞ふ。

△掲載の便りがある如く編輯員の香山清和、湯原祥の兩氏は元氣で其の完成に汗みどろになつて居られるが、後を引受けてゐる編輯員も不馴から来る責任感の頭痛に悩まされながら編輯を終つて軽い氣持になつた。何卒不備の點は御容赦を乞ふ。

△時節柄暑中見舞は此の時報を利用されるかと思つたが外部からの申込至極僅少には驚いた。全然廢止しようかと思つたが「無事か」元氣だ」をお互紙上て示し合ふのが好ましいではないですか。

優良蠶種案内

昭和十四年度春蠶種

×分 離 白 一 號	絲質特優
×分 離 白 二 號	絲質優
×分 離 白 三 號	絲質最優

昭和十三年初秋、晩秋蠶種

×分 離 白 一 號	絲質最優
×分 離 白 二 號	絲質優
×分 離 白 三 號	絲質最優

右各原種分譲の御相談に應ず  
廣島縣御調郡奥村綾目八兵衛

蠶種業 小川 保

電話 市村局一四六番  
振替 廣島二四六番  
振替 大阪三三三番  
電報 市村局別便配送料不要